S-1　気仙沼市鹿折浪板地区　　2011 年 12 月 28 日（水）

報告者名	梅屋　潔	被調査者生年	1944 年（男）
調査者名	梅屋　潔	被調査者属性	鹿折公民館館長、気仙沼市指定無形民俗文化財浪板虎舞保存会幹事長
補助調査者	相澤　卓郎		

被災した際（3 月 11 日）以降の状況

地震があったときには職場にいた。90 になる母と妹の安否確認に自宅に戻った。自宅は壊れたものもなく、母も妹も無事だったが、大地震の後には津波が来る、との認識があったために、津波が来たら 2 階に上がっているように 2 人に言い置いて、職場に戻った。

公民館に戻ると避難民があつまってきていた。15 時か 16 時になっており、次第に寒くもなっていた。津波に備えて、布団やブルーシートなど避難生活に必要と思われるものを 2 階研修室に運搬し、避難民も 2 階以上に避難させた。ひととおりの公民館長としての仕事を終えた後、周囲に促されもして自宅へ向かったようだ。気がつくと軽トラックに乗っており、浪板橋を渡ろうとしたが海岸の方から来る車や山手から来る車で挟まれて身動きができなくなった。そのうち渋滞の間隙にわずかな隙間を通って、なんとか自宅にたどり着いた。

普通は自宅まで 1 分程度。そのときにはすでに津波が遠くに来ていたようだ。親類が「津波が来てるぞ」と声をかけたと後で聞いたが、そのときは気がつかなかった。家につくと母が荷車を押して庭先に出ていた。妹は自転車で、母は軽トラック助手席に乗せて、荷車は荷台に乗せて山手（やまて）に逃げた。光ヶ丘病院という神経科・精神科の病院があるあたりである。道沿いに上がれば高台まですぐなのだが、まさかそこまでは来ないだろうと思い、道沿いではなく病院の職員用駐車場の中を通って避難した。駐車場の突き当たりにある一軒家までたどり着いた。そこに停めて、後ろを見たら津波が来ている。堰の方が速度が速いらしく、追い抜かされた。車を乗り捨てて母親を負って山に登った。

後ろを見たら、流されてきた車と、駐車場に駐車してあった車が山になって折り重なっていた。ハザードランプが点滅したままだったり、クラクションを鳴らし続けていた。（追い抜かされた覚えはないのだが、後にその場所から公民館近辺でわかれた虎舞のおじいさんの乗った自動車が発見された。虎舞をしていた子供たちもなくなっていた。流されてきたのであろう）潮が何回か上がり下がりしたが、すでに瓦礫の山に封鎖されて来た道は戻れなかったので、身動きができず、その奥にある 1 軒の家に 4 日間世話になった。2 日間は出られなかったので、連絡することもできず、公民館では津波の方角に向かっていった館長が犠牲になったのではという声もあったようだ。

3 日目、光が丘の職員が瓦礫を除去して道が通ったので、公民館の方に連絡がつき、午前中に浪板、昼過ぎに大浦、小々汐まで安否確認に行った。瓦礫だらけで通り道もなかった。旧知の人びとの安否を確認し、2 時間半かかって行ったら、暗くなるのでとって返した。光が丘についた

頃には、暗くなった。それが３日目。４日目は鹿折駅付近を確認してその日も終わった。５日目（15日）の朝、消防に４:30に起こされた。付近の大浦が火事になったという。世話になっていたご家庭の奥さん（看護師）が４日目にしてはじめて自動車で帰宅した。ご家庭の娘さんが嫁に行っている西中才の方に避難するという。その自動車に便乗して、母親の実家がある（山手にある）早稲谷に連れて行ってもらった。早稲谷に母と妹を預けて状況把握のためにまた鹿折に戻った。帰りは暗いトンネルを自転車で早稲谷に小１時間かかってたどり着いた。それからはそこを拠点に、数少ない軽トラックを借りて早稲谷から通って、地区の安否確認に回った。

４月ごろから公民館が鹿折小学校に間借りすることになった。そこもかなり（後に専門家が来てはかったところ床から140センチ）浸水していたし、ヘドロが、建物は無事であったので、東中才の自治会長、小学校のPTAなど地域の方々が清掃してくれた。公民館では、市の支援センターからの物資を配給した。衣類や子供用品、衛生関係などの物品のニーズも調査した。毎週日曜日朝９:00から、のべ14回配給を行った。９時からだが７時にはもう行列ができていた。平均すると１回250人ほど集まっていた。最後希望の品がなくなっても鹿折の人びとからは感謝の言葉しか聞かれなかった。鹿折の人びとのマナーのよさに感銘を受けた。ボランティアのありがたさも身にしみた。

私自身は、６月まで早稲谷に身を寄せていたが、自治会長の口利きで、現在鹿折小学校向いにあるアパート住人が仮設に移ったため空きができ、修理完了後すぐに入居することができている。

10月９日には、復興を期して「祈念まつり」を開催し、2,200人から2,300人の人を集めた。

鹿折と浪板虎舞保存会の被害と今後

震災で亡くなったのは、前幹事長で顧問、会計兼副会長（規約上自治会長は保存会副会長を兼ねることになっている）夫妻。浪板１地区では６名、浪板２地区では17人、計23名が犠牲になった。

もともとは、カトク（家督）つまり長男しか虎舞に関わることはできなかった。しかし、大学にいったり、就職したりで浪板を離れる人も多く、担い手の確保がかねてから課題だった。昭和41年に保存会ができて規約が制定され、「火曜の会」という集まりもあったが休眠状態だった。話者が平成14年に浪板に帰ってきてから活性化を訴え、火曜日夜７:00から毎週笛太鼓の練習をするようになった（火曜の会）。そのころから女性も太鼓を叩くようになり、平成16年ごろには熱心な女性会員が集まるようになった。

震災が起こっても、規約はそのままであり、改正するつもりはない。浪板の216戸は、いまも戸籍もそのままだし、したがって規約上浪板虎舞保存会の会員である。今後仮にどこかに住所を移したとしても、当人およびその子孫は虎舞の活動から排除しない。将来的にはもともと叩いていたが疎遠になっていった人たちも含めて、「準会員」のようなことも考えているが、それは今後の検討課題だろう。４月に行われる保存会の総会で現時点までの案を開陳し、検討する予定である。

虎舞は、もともとは海上安全・大漁祈願のための舞であるが、家内安全、商売繁盛のためにも舞う。結婚式や船おろし、新年会などめでたい席に招かれて披露する。保存会会員からは会費も徴収するが、その際のご祝儀が主な資金源である。

来年の初舞は 1 月 15 日に飯綱神社に奉納する。のちに須賀神社で舞う。1 月の第 3 日曜日ときまっている。須賀神社の縁日は 10 月 15 日。この折には須賀神社に奉納してから飯綱神社で舞う。飯綱神社は商売の神であり、須賀神社は不動明王を祀っている。浪板虎舞は招かれればどこへ行っても披露する。昭和 48 年には大阪万博に招かれた。今年の 6 月 4 日には横浜の山下公園で震災後初の虎舞を披露している。

トーメー（当番）

八幡神社の御輿の担ぎ手、ロクシャク（陸尺）はトーメーと呼ばれる当番制で担当することになっている。鹿折地区では 4 つの地区（中才･浪板･蔵底（くらそこ）･東八幡）で毎年当番を決め、八幡神社での祭礼をおこなっている。当番はこの 4 つの地区でローテーションにより決め、中才・浪板・蔵底・東八幡の順番で回していく。

湾内の人は鹿折八幡神社の氏子であるが、各地区にそれぞれある神社の氏子でもある。というより、自分たちの神社である、という認識である（『気仙沼市史』Ⅶ、514–5 頁には、「無格社飯綱神社、明治 42 年 9 月 30 日八幡神社ニ合祀」とある。明治 39 年の勅令の影響であろう）。浪板は、行政区としては浪板 1、2 と分けられている。浪板 1 の住民は飯綱神社の、浪板 2 の住民は須賀神社の氏子崇敬者である。

浪板はオリンピックの年がトーメーで、その次の年は蔵底と呼ばれる新浜 1、2 丁目あたりの町場、次の年は東八幡あたり、そしてその次の年は、西中才と東中才が担当する。今年担当の浪板は大丈夫だが、今回蔵底は大打撃を受けているので、ローテーションが崩れる可能性は否定できない。巡行の途上、氏子の庭などに休憩所がもうけられるが（一般に言う「御旅所」）、飯綱神社、須賀神社の脇には集会所があり、そこに神輿が入って直会が行われるときには、ロクシャクの担当であるなしにかかわらず、参加する。浪板がトーメーの時には、八幡神社の前夜祭に虎舞を奉納し、神輿渡御の際には鶴が浦から船で出てお神明さん（五十鈴神社）の前を通って鹿折の岸壁に着ける。会場で 3 回ほど回るが、右回りだったか左回りだったかは定かではない。葬列は左回りだというのは確かなのだが。この折りに神輿の後ろには太鼓がついてうちばやしを行い、虎を舳先で振る。浪板には虎舞があり、中才にはうちばやしがあるが、それ以外の地区には、そういった伝統芸能はないと思う。

それ以外の社祠

話者は 5 人兄弟である。一番下の弟がトロッコの下敷きになったことがある。命が助かったので、その場所にオダルガミ（山の神）を祀り父と弟の名で木の鳥居を寄進した。その後それは朽ちてしまったので、その土地の地主が鉄筋の鳥居を建てている。

八雲神社には、祖父の代にイドバタアミというカツオの一本釣りのえさに使う鰯網漁で羽振りが良かった頃に狛犬を奉納した。イドバタ（井戸端）とは私の屋号である。そういった縁のある祠や神社はそれ以外にもある。

お年とり

今年は、自宅も神棚も流されたので、正月飾りは市販の丸いしめ縄を飾るだけの簡便なものに

しようと考えている。本来は母屋には三つ揃えの松、7 本のしめ縄を飾り、離れには二段の松に 5 本のしめ縄、水回りには 3 本の輪、また井戸、風呂、離れの水道、トイレ、自転車、自動車、耕耘機、臼、若水迎えの桶など 10 数カ所に正月飾りをするのだが。幸い、位牌は発見してもらったので毎朝水をあげて拝んでいるが、正月は簡素なものになりそうだ。